

だいせん市議会だより

あなたのギカイ

令和8年5月1日 第84号 令和8年3月定例会の内容を分かりやすくお伝えします。

対話力を磨き、より良い政策へ
— 議員研修を開催 —



CONTENTS

- 中学生議会……………P 2
- こんなことが決まりました……………P 6
- 聞いてみたいこんなこと……………P10
- 市政懇談会……………P17
- きかせて！あなたのミライ……………P18

大仙市議会議員研修会「対話で変える議員の仕事」
(大曲エンパイヤホテル、3月16日)

中学生議会と議員との懇談会を開催



◀詳しくはこちら

1月8日、本会議場で中学生議会を開催しました。市内10校から選出された20人の代表生徒が地域の課題や将来について質問や提案を行い、未来を担う世代の思いが市政に届けられました。



議長：中仙中学校



副議長：仙北中学校



発言内容と参加生徒の感想を紹介します。（■の部分が感想）

花火グッズで誇りを育む

大曲中学校

提案 全国から多くの人を訪れる「大曲の花火」での、中学生が関わる花火関連グッズ制作を提案します。花火をモチーフにしたひんやりタオルやうちわなどを中学生のアイデアで制作し、地域産業への理解や誇りにつながりたいと考えます。



みづおか めいさん



たかはし じゅんさん

「大曲の花火」を通じた提案に、市長から答弁をいただき、私たちの意見が真剣に受け止められていると実感しました。他校の意見を聞くことで、市の課題や魅力をいろいろな方向から考える必要があると感じました。

市長 全国花火競技大会でのボランティアスタッフなど、中学生の皆さんが花火を支える側として主体的に関わっていることに感謝しています。ご提案は市が目指す花火のブランド力を生かした地域活性化の考えに合致するものであり、「大曲の花火」を共催する大曲商工会議所と協議したいと考えます。事業化の際は「若者チャレンジ応援事業」により支援させていただきます。

回収活動をイベント促進に

大曲西中学校

提案 本校で行っている古紙やアルミ缶の回収活動を、地域イベントへの参加促進につなげたいと考えました。回収に協力した家庭などにポイントを付与し、地域イベントで利用できる仕組みと、回収活動やイベントを中学生が取材・発信することを提案します。



さいとう ひよりさん



みづおか いつきさん

舛谷副市長 分別収集でのポイント制度には課題がありますが、学校での回収事業の収益は地域イベントへの活用も検討できると考えます。また、回収やイベントの様子を市の広報や公式SNSで発信することは、資源循環やSDGsの理解を深める上で意義があると感じます。市も連携して分別やりサイクルの情報提供を行い、より効果的に意識啓発につなげることができると思います。

自校の取り組みと市の取り組みを関連付け、何ができるかを考えました。本番でしか得られない緊張を乗り越え、考えを伝える大切さと自信を得ることができました。

中学校合同イベントで にぎわい創出

大曲南中学校

提案 中学生が飲食や物販、体験コーナーなどを行う「中学生屋台」を中心とした、市内全中学校の合同イベントを提案します。地域や企業と連携することで、交流の広がりや学びの機会が生まれ、新たなにぎわいを創出できると考えます。



もがみ ひさき
最上 日咲さん



すがわら たける
菅原 丈瑠さん

教育長 地域活性化につながる素晴らしい発想です。実施には会場確保や日程調整、雨天対応などの課題も想定されます。まずは学校祭や地域イベントでの実践から始め、企業や地域とのつながりをつくるのが大切と考えます。成果と課題を中学生サミットなどで共有することにより、次の取り組みにつながる道筋が見えてくると思います。

どのように実現し、次へとつないでいくのかまで考えることの難しさを実感しました。議案づくりでは、学年全員で案を出し合い、協力しながら一つの提案に練り上げていきました。その過程はとても難しかったのですが、やりがいを感じました。

民話や伝承を次世代へ

平和中学校

提案 神岡地域に伝わる「おいだらぼっち」などの民話や伝承が、語り継がれなくなっており、嶽（がけ）友館や道の駅がみおかなどの施設へのPRコーナー設置を望みます。また、自分たちが学んだ民話や伝承を保育園や小学校で伝える出前授業について考えを伺います。



こばやし あいな
小林 愛奈さん



こんの かける
今野 駈さん

教育長 市施設へのPRコーナー設置は、地域の方や来訪者に神岡の文化を広く知っていただく上で有意義です。中学生の皆さんには学んだ内容をポスターやリーフレットにまとめていただければ、学習成果を展示できるよう調整します。出前授業は素晴らしいアイデアです。他校の取り組みも参考にしながら活動をさらに充実させてほしいと思います。

市長、副市長、教育長から答弁をいただけたことは、普段の学校生活では得られない貴重な経験でした。地域の歴史や文化を受け継いでいきたいという思いがいつそう強くなりました。

大綱ができるまでの過程も 伝えたい

西仙北中学校

提案 「刈和野の大綱引き」と、それを支える「大綱米プロジェクト」は、地域が誇る大切な取り組みです。多くの人に行事やその背景にある歴史・文化を知ってもらうため、大綱米が育ち、大綱になるまでの過程を継続的に発信することを提案します。



すがわら あいの
菅原 綾乃さん



たかね むねちか
高根 宗親さん

市長 市では、「刈和野の大綱引き」の保存継承のため、「大綱米プロジェクト」に地域総ぐるみで取り組んでいます。これまでホームページや支所だより、市民などが市の魅力を発信するインスタグラム「だいせん宣伝部」などで周知してきました。今後は、宣伝部以外の市民や企業などからも発信していただけるよう後押ししていきます。

思いが伝わる言葉を考え、話し方や資料の出し方を練習したことで、不安を減らして本番に臨むことができました。他校の質問から新しい視点に気付き、大仙市を今までとは違う見方で考えるきっかけにもなりました。

コスモスで地域を活性化

中仙中学校

提案 「コスモスで地域を活性化」を提案します。本校では、育てたコスモスを使ったハーバリウム作りや、地域の祭りでの種の配布で交流を広げてくださいました。市の花コスモスを、市内全域で栽培するのはどうでしょうか。美しい風景が観光名所になるかもしれません。



富岡 純仁さん



伊藤 笑花さん

今野副市長 市の花コスモスは、大仙市を象徴する花として選ばれたもので、さまざまな場面でのPRや、緑化推進委員会が主体となり、「市の花コスモス普及促進事業」を展開しています。皆さんの取り組みは、コスモスを架け橋に、学校と地域をつなぐ素晴らしい取り組みです。他校へも紹介しながら、今後も普及に努めますので、コスモスの輪がより大きく広がるよう、協力をお願いします。

将来、大仙市に恩返しできるような仕事に就きたいと思っています。その夢を実現し、地域に貢献できるように、この経験を踏まえ考えたいです。

連携でつなぐ地域の魅力

協和中学校

提案 にぎわいやつながりが薄れつつある中、地域の魅力をつないでいくことが課題です。協和中学校では学校祭を協和公民館で開催し、「ちいきみんなのきょうわ祭」と連携しています。さらに魅力あるものとするため、商工会と連携し、地元産品や店舗の魅力発信を提案します。



加藤 大志さん



進藤 嘉人さん

教育長 ご提案のとおり「ちいきみんなのきょうわ祭」などのイベントで、さまざまな関係者との連携に加え、地元産品PRや若者の参画は、地域の魅力発信や交流人口の増加につながると感じています。今後も情報発信について、市民による主体的な発信も視野に、より効果的な方法について、地域の意見も取り入れながら検討していきます。

話すペース、目線、間の取り方など、「自分たちが聞き手だったら」と想像しながら練習に励みました。答弁をいただき、地域との連携を強めていきたいと強く感じました。

高齢者にも届く情報発信

南外中学校

質問 災害やクマ出没など、安全に関わる情報が、迅速かつ確実に伝わる仕組みが重要です。スマートフォンやインターネットを利用できない方でも、情報を受け取れるよう、高齢化が進む地域における情報発信の現状と今後について伺います。



佐々木 華穂さん



加賀 一花さん

今野副市長 市公式LINEやホームページ、コミュニティFM、広報車など複数の手段を組み合わせることで、高齢者等には、民生委員や町内会を通じた見守りの中で、いざという時のための情報伝達との関係性を構築しています。今後も、デジタルが果たす部分と、地域の皆さんに担っていただくアナログの部分の効果的に組み合わせ、より実効性のある取り組みとしていきます。

実際に議場で質問することは、全校生徒の前で話す以上に緊張しましたが、意見を直接届けることができ、貴重な経験でした。学校や地域によって考え方や視点が違うことに気づき、視野が広がったと感じました。

充実エリアの強みをさらに生かす

仙北中学校

提案 仙北地域の多目的人工芝グラウンドやふれあい文化センターなどのスポーツ・文化施設エリアをさらに活性化するため、交通利便性のPRと、高齢者から子どもまで参加できる「月イチスポーツイベント」、大会時に物産コーナーを設けることを提案します。



小松 依史さん



佐々木 咲来さん

舛谷副市長 ご提案のとおり、交通利便性の高さを大いにPRし、引き続き、大会開催やスポーツ合宿招致、スポーツツーリズムの推進などに取り組んでいきます。「月イチスポーツイベント」は健康まちづくりプロジェクトとの連携も視野に検討します。物産コーナーは、既存店舗への影響を考慮し、今後の状況を踏まえて検討します。

午後からの議員の方々との懇談会では、議員の方々私たちの意見が少し違う部分もありましたが、その違いを踏まえて大仙市をより良くしようとする思いが伝わってきました。

温泉の魅力向上に中学生の力を

太田中学校

提案 中学生が主体となり温泉を盛り上げる取り組みとして、地元商店と連携した商品の温泉施設での販売、中学生がデザインした温泉PRキャラクターを活用したスタンプリー、自然体験と温泉を組み合わせた体験型観光を提案します。



藤峰 咲耶さん



上園 彬丸さん

市長 地元事業者と連携した商品の販売は、話題性があり、若い世代の温泉利用につながる良いアイデアだと感じます。PRキャラクターによるスタンプリーも、施設間の連携や誘客促進が期待できることから、前向きに検討していきます。自然体験と温泉を組み合わせた体験型観光は、滞在時間の延長や地域の魅力発信につながるため、ニーズや課題を研究していきます。

全校生徒へのアンケートや、地域の方々との関わりを通して、みんなの思いを背負う責任や、地域の方々温かさや支えを感じました。この経験を通じて、ふるさとについて深く考えられたことが私たちの成長です。



①～⑤：中学生議会、⑥議員との懇談会

● 第1回定例会 議案審議 ●

大仙市の こんなことが決まりました。

第1回定例会 会期23日間 2月19日～3月13日



第1回定例会	
専決処分報告	1件
人事案	3件
条例案	17件
単行案	6件
補正予算案	10件
当初予算案	19件
陳情	2件
意見書案	1件

※議会用語解説はこちらから



今号では
この中から
4つを **Pick up**

全ての議案名と審議結果は、大仙市議会ホームページをご覧ください。



議案の審議結果

〈議案第11号〉大仙市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について
〈議案第35号〉令和8年度大仙市一般会計予算

Pick up 1

中仙・太田地域の小学校を 令和9年度から新体制に

令和9年4月に、中仙地域では清水小学校を中仙小学校へ編入し、太田地域では東・南・北の3小学校を統合します。閉校記念事業や、備品整備など、開校に向けた準備を進めます。

今後は児童数の推移を踏まえ、子どもの学びを最優先に、学校配置の在り方や廃校舎の活用などを検討します。

学校規模適正化推進計画の詳細はこちら



〈議案第35号〉令和8年度大仙市一般会計予算

Pick up 2

Aーオンデマンド交通の 実証運行を開始

人口減少や高齢化、運転手不足などにより公共交通の維持が課題となっています。この課題に対応するため、太田地域で、公共交通の路線再編とAーを活用したオンデマンド交通の実証運行を行います。効果を検証しながら今後の導入を検討します。

Pickup 3

クマなど 有害鳥獣対策をさらに強化

クマなどの捕獲に係る実施隊の報酬を4千円から8千円に引き上げるほか、誘引樹木の伐採補助は住宅集合地域の要件を撤廃し、対象を拡大します。また、捕獲検知システムやセンサー式カメラなどICT機器を導入し、被害防止と安全確保を図ります。

こんな質問が出ました

誘引樹木伐採事業補助金について、現在、樹木伐採費用のみ補助対象としているが、伐採後の処分運搬費について補助対象としてほしいとの声が届いている。今後、補助対象とする考えはあるか。

A 現時点ではクマを寄せ付けない対策を第一に考え伐採費用のみを補助対象としているが、今後そのような声にも耳を傾け、検討してまいります。



赤外線カメラにより、クマの体温を感知するサーマルドローン

Pickup 4

「だいせんーTベース・プロジェクト」を開始

IT企業が進出しやすい環境整備と、IT人材の育成を進めるため、だいせんーTベース・プロジェクトを開始します。まずはIT人材の裾野を広げるため、高校生向けセミナーやワークショップを実施し、ITへの関心向上と基礎スキルの習得を図ります。

こんな質問が出ました

セミナー開催予定の市内3高校と、その選定理由について伺う。

A 大曲農業高等学校、大曲高等学校、大曲工業高等学校の3校である。選定については、令和4年度から高校生と大学生とのワークショップに取り組んでいるが、当時、市内全ての高校に声掛けをした結果、今回の3校に協力をいただいた経緯があり、このことが選定理由である。



予算質疑

本会議4日目に行われた予算質疑の内容を紹介します。

安達 成年議員（けやきの会）



議案第35号

令和8年度大仙市一般会計予算 むすび・サポート事業費

Q 出合い・結婚応援イベントの強化策の詳細について伺う。

A これまでの婚活イベントを、結婚に意欲的な方を対象とした「集中婚活支援型」として開催費用を支援するほか、「交流・関係構築支援型」として、既婚者も含む幅広い世代や人脈を通じて交流を広げるイベントも補助対象とし、出合いに消極的な方の後押しに取り組む。

Q 結婚新生活支援事業補助金の年齢区分の根拠について伺う。

A 結婚新生活支援事業補助金は、結婚に伴う引越し費用などを支援するもので、国制度に基づき、39歳以下を対象にしている。一般的に若い世代ほど経済基盤が弱いいため、年齢による給付額の差を設けている。

議案第50号

令和8年度市立大曲病院事業会計予算

Q 病院経営の見通しと、毎年増加している一般会計からの繰出金について伺う。

A 全国的に病院の経営状況は厳しく、市立大曲病院でも、診療報酬が人件費や物価高騰に追い付かず、大変厳しい運営が続くものと捉えている。精神科の単科病院として政策医療を担い、慢性的な不採算や長期入院問題などが課題である。診療報酬等の収益だけでは賄えず、一般会計からの繰出金により収支を維持しており、繰出金の上限額は経営強化プランに定めているが、最小限に抑えるよう経営の健全化に努める。

Q 病院存続のためにも、広域圏での病院経営の可能性について伺う。

A 市立大曲病院は、平成5年に仙北組合病院から不採算部門であった精神科を引き受けた経緯がある。広域圏での病院経営は現段階で具体的な検討はないが、人口減少や医療需要の変化を見据え、県の地域医療構想の経過や関係機関の動向も踏まえ判断していく。

討論

第1回定例会で討論された内容を紹介します。

大曲ファミリースキー場の廃止に関して、次の意見がありました。（議案第19号・議案第27号）

反対討論

佐藤 文子 議員（日本共産党）

地方自治体にはスポーツの機会確保の責務があり、本市も地域特性に応じた施策を策定すべきである。大曲ファミリースキー場の利用者は全国的にスキー人口が減少している中、ほぼ横ばいである。交通便利性が高く、初心者や親子連れ、低学年のスキー授業に適した安全な施設である。将来の競技者育成につながるステップとなるスキー場でもあり、教育の一環として存続すべきである。

賛成討論

青柳 友哉 議員（たすきの会）

スキー場の廃止に寂しさを感じるが、年間約900万円の赤字に加え、将来、数億円単位の設備更新が必要となる。守るべきは施設ではなく、スキーを楽しめる環境・機能である。大台・協和スキー場で代替でき、規模などではむしろ充実している。スキー教室への影響も限定的である。限られた財源を真に必要なサービスに充てるため、苦渋の選択ではあるが、正しい判断である。

令和8年度当初予算に関して、次の意見がありました。（議案第35号・議案第41号）

反対討論

佐藤 文子 議員（日本共産党）

政府は、消費税減税や賃上げには背を向け、自治体には、公共施設の集約化や統廃合、デジタル化などを押し付けている。本予算は、大曲ファミリースキー場廃止に伴い教育関連予算が減額されたほか、住宅リフォーム支援事業で一般世帯が対象外とされたことは、地域の関連業者の仕事を奪うものであり、復活を求める。給食費無償化などは評価するが、以上の理由から反対する。

賛成討論

佐藤 芳則 議員（けやきの会）

子育て支援、地域活性化と産業振興、除排雪体制の強化や、クマ・イノシシ対策、DX推進などを評価する。厳しい財政状況にあっても、めりはりのある予算編成である。委員会審査で事業ごとに必要性や効果など詳しい説明を聞き、予算が適正に配分されていることを確認した。執行に当たっては、進行管理の徹底を求める。本予算は市民生活の安定と持続的発展につながるものである。

令和8年度後期高齢者医療特別会計予算に関して次の意見がありました。（議案第37号）

反対討論

佐藤 文子 議員（日本共産党）

後期高齢者医療保険料の改定により、とりわけ均等割が大きく引き上げられる。さらに国の財源で対応するべき「子ども・子育て支援金」が上乘せされる。保険料の均等割だけでも、一般世帯では一人当たり、前年度比約1万2千円の増、7割軽減の対象となる低所得者でも、2500円の増となる。保険料の大幅引き上げに伴う予算であり反対する。



令和8年第1回定例会 賛否一覧

この表は賛否が分かれた案件のみ記載しています

議案等名	議決結果	だいせんの会					たすきの会					けやきの会			公明党	見食齋	栗原	参政党	新国会						
		高橋 徳久	佐藤 芳雄	高橋 敏英	高橋 智也	古谷 武美	橋村 誠	石塚 柏	山谷 喜元	橋本 琢史	門脇 智宏	後藤 健	青柳 友哉	佐藤 隆康	佐藤 育男	大山 利吉	安達 成年	佐藤 芳則	本間 輝男	秩父 博樹	挽野 利恵	佐藤 文子	菊地 伸	小須田逸子	小笠原昌作
議案第19号 大仙市営大曲スキー場条例を廃止する条例の制定について	原案可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第27号 令和8年度大仙市スキー場事業特別会計への繰入れについて	原案可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第35号 令和8年度大仙市一般会計予算	原案可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○
議案第37号 令和8年度大仙市後期高齢者医療特別会計予算	原案可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○
議案第41号 令和8年度大仙市スキー場事業特別会計予算	原案可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○
陳情第9号 「最低賃金」の改正と中小企業・小規模事業所支援の拡充を国に求める意見書」の採択を求める陳情書	不採択	●	●	欠	●	●	●	●	●	議長	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●

○：賛成 ●：反対 欠：欠席者 議長は採決に加わりません。

一般質問

聞いてみたいなこと

こんなこと



一般質問とは？

皆さんの生活に関わる大切な内容について、市議会議員が市に対して質問を行います。今回の一般質問であなたの生活に関わる内容はありますか？

質問議員 10人 質問項目 20件

一般質問の全ての内容を動画で視聴できます。
各議員顔写真の下にあるQRコードを読み取り、ご覧ください。

冬期間の除排雪体制について



菊地 伸
(市民クラブ)



Q 降雪時に除雪出動判断が不明確な日があった。また、路肩排雪作業の箇所選定も判断基準が不明確である。これらの判断状況について伺う。

A 午前0時半から4時までに除雪自動通報システムが10センチメートル以上の降雪量を感じすれば除雪業者へ出動指示を出す。日中の降雪や気温、路面の状況等を考え、職員が出動指示を出す場合もある。渋滞回避、接触事故防止のため、午前7時半まで作業を終わらせるよう、出動判断を午前4時までとしている。

積雪があっても出動がなかったのは、午前4時以降に急激な降雪があり、出動指示ができなかったからと思われる。今後も安全面に配慮した除雪作業に努める。路肩排雪作業は、パト

ロールや市民からの情報を踏まえ、通学路や幹線道路、交通量の多い交差点を優先して箇所選定をしている。今年は短期間に降雪量が増加し、排雪作業が遅れた。危険性の高い道路や交差点の早期把握に努め、作業手順を工夫し効率的かつ効果的な排雪により安全確保に努める。

この他、災害時の避難所における空調設備、ひきこもり支援体制、市職員の労働環境改善について質問しました。



ツキノワグマの大量出没に 対する対応について



小須田逸子
(参政党)



Q クマの侵入を防ぐために里山の整備をどのように進めていくのか。

A クマとの遭遇を未然に防ぐための緩衝帯整備を約70ha実施しており、有効な対策として継続する。

Q ガバメントハンターの雇用と、クマを追い払うベアドッグ導入について伺う。

A 県でガバメントハンターの配置を検討しており、県や関係機関との役割を明確にしながら制度設計を進める。クマの出没頻度が高く区域も広大なため、ベアドッグが現場へ急行できる体制維持は困難であり、サーマルドローンやセンサーカメラなどICT技術を活用し、効率的な状況把握に努めている。

Q 人工の針葉樹林を広葉樹林

や針広混交林へ変えていくための植林はできないか。

A 人工林の荒廃は課題であり、再造林や森林整備、広葉樹林の再生に取り組んでいる。学校や林業経営体と連携するフォレストパートナーシップ事業を活用し、多様な森づくりを進める。

Q クマ絶滅による生態系への影響は計り知れない。絶滅を避けるために市ができることはないか。

A 県の生息数調査を踏まえ、関係機関と連携し適正な個体数管理を推進し、総合的な対策を進めていく。



スマート農業実証事業の検証および イノシシによる農業被害対策について



橋本 琢史
(たすきの会)



Q スマート農業について、実証事業の成果と方向性について伺う。

A ドローン直播の実証では、作業能率が約23%短縮、収量は約3%減で、労力削減による規模拡大に寄与すると考える。トマトのハウス栽培周年化は湿害による病害対策が課題である。また、RTKシステムを活用した水稲の乾田直播栽培などの実演会も実施した。

今後は、得られたデータやマニュアルの普及に努め、多様な生産者への活用を図るため、関係機関と連携しスマート農業を推進する。

Q イノシシによる農業被害への認識と対策について伺う。

A 被害は増加傾向で、令和7年度は水稲の食害や踏み倒しによる被害が約1ha、被害額は105万円であり、

継続的な対策が必要である。市では個体群管理、電気柵による侵入防止、やぶ払いによる生息環境管理を柱に対策を進めるほか、地域ぐるみの体制構築に資する講習会等により、共助の面からも対策を強化したい。免許取得支援により鳥獣被害対策実施隊の確保を図っているが、高齢化や担い手不足が課題であり、将来を見据えた体制整備を進めた



インバウンド観光戦略について



青柳 友哉
(たすきの会)



Google画像検索で「DAISEN」と検索すると、鳥取県の大山だいせんが表示される。アルファベット表記の「DAISEN」には、すでに大仙市とは別の強固なイメージが定着しており、「DAISEN = 大仙市」として海外に認知させることは容易ではない。

訪日外国人に向けた地域ブランド名としては、本市の玄関口であり唯一の新幹線駅である「Omagari」あるいは「Omagari Region」を用い、その下に市内各地の観光資源を束ねて一体的に発信すべきではないか。

大曲の花火が「Omagari hanabi」や「Omagari fireworks」として海外に認知されつつある中、「Omagari」を用いることはインバウンド誘客に効果的と捉



えている。また「Region」を付加することで、周辺観光を含めた面的な広がりも期待できる。「Omagari」「Omagari Region」を積極的に活用して、もう一回観光戦略を練ってみたい。

第5次農業振興計画（案）について



高橋 徳久
(だいせんの会)



策定中の第5次農業振興計画は、オーガニック給食の実現をイメージしたもののか

第5次農業振興計画は令和8年度からの5カ年における農業振興の最上位計画であり、多様化する消費者ニーズに対応する農業生産体制構築の取り組みの一つとして、有機栽培、減農薬・減化学肥料栽培など環境保全効果の高い営農活動を目指す方向としている。「農業と食」地域活性化プランでも有機農業の事業展開を計画している。

今後は秋田県有機農業研究ネットワークに参画し、県や市町村と連携して有機農業に関する技術の調査、研究の情報収集を行い、市内生産者への周知と定着を図っていくこととしている。オーガニック給食、有機

農産物を使用した給食については、現在、有機農産物の供給量の確保は困難であるが、有機農業の取り組みを普及推進することで有機農産物の生産を図り、食育の一環として学校給食で提供できるよう関係機関と連携していきたい。

この他、小・中学校の不登校問題、保育園支援について質問しました。



官民挙げての奨学金返済支援による若者の定着推進について



秩父 博樹 (公明党)



Q 奨学金返済支援について、県では「あきた企業連携型奨学金返還助成制度」により、県内就職する大卒者などの奨学金返還を最大120万円支援している。雇用する企業は3分の1を負担し、経費として損金算入できる。

A この制度を広く周知し、登録企業を増やし、若者の定着につなげることにについて、市の見解を伺う。

県が実施するこの制度は、企業と連携し、大学卒業生などの奨学金返還を支援し、県内定着を促進するものである。

令和6年度に制度化され、県内就職者にとって、返済負担が軽減され生活の安定につながるだけでなく、企業側も、給与として損金算入され、法人税の課税所得の縮減が可能で、企業イ



「あきた企業連携型奨学金返還助成制度」について、詳しくはこちら

メージ向上や人材確保にも資する施策である。

市も周知を図っているが、内容を把握していない企業、メリットを感じない企業も一定数あると思われる。就職者と企業双方へのメリットをPRできるよう、周知やPR手法を検証し、商工団体や金融機関の協力をいただきながら、さらなる普及啓発に努めていく。

この他、安定した水の供給に資する管路の更新、道路の除排雪における市民との連携について質問しました。

周辺地域の高齢者に係る諸課題について



佐藤 芳則 (けやきの会)



Q 買い物に行けない高齢者等の救済策について伺う。

A コミュニティバスや乗り合いタクシー、移動販売車、住民ボランティアなどによる移動支援など、「共助」の仕組みが育つよう啓発と支援に努めていく。

Q バス停から遠い高齢者や送迎を頼めない人の交通手段の確保策について伺う。

A 「住民共助交通支援事業補助金」により車両リース料や燃料費など運行経費の一部を支援しているほか、通院や買い物送迎の付き添いサービスの補助も行っている。「南外さいかい市」を



「南外さいかい市」の移動販売

モデルに全市的な展開を図るとともに、AIオンデマンド交通の実証運行を実施する。

Q 一人暮らし高齢者への食事提供、いわゆる「大人の食堂」の開設について伺う。

A 市内90カ所の通いの場やサロンで食事を通じた交流が行われているほか、調理などが困難な高齢者には安否確認を兼ねた配食サービス事業を実施している。まずは通いの場の充実と配食サービスの推進に努める。

Q 高齢化対策の窓口を一元化することについて、現状と方針を伺う。

A 高齢者包括支援センターで相談をワンストップで受け止め専門部署へつなぐ体制であり、今後も機能充実と庁内連携の強化に努める。

小学生の通学バッグについて



利恵 挽野 (公明党)



Q 10年間でランドセル価格は4割上昇しており「手頃な代用品があれば助かる」という声がある。

「隠れ教育費」「ランドセル格差」ともいわれる中、市としてランドセル以外の選択肢を示すことで、経済的、精神的な余裕が生まれると考えるが、所見を伺う。

A 小学生の通学バッグについては、各小学校がこれまでの伝統や保護者の意向を踏まえて対応しており、二つの小学校で、通学用かばんとしてランドセル以外も選択できることを入学説明会などで保護者に伝えている。

一方、多くの学校では新入生説明会資料などにランドセルと記載しており、安全性や機能性への配慮、従来の踏襲によるものと推測される。そうした小学校でも、ランドセル以外のかば

んを使用している児童もあり、体格に合ったかばんを使用するなど、それぞれの事情に合わせた対応が行われている。

引き続き通学用かばんの実態把握に努めるとともに、子どもの安全や体への負担を第一に考えた対応を各小学校へ周知していく。

この他、市営住宅について質問しました。



若者、女性が活躍できる環境づくりについて



小笠原昌作 (新国会)



Q 若者定住の基盤となる就労の場の確保と商工業振興の効果検証について伺う。

A ハローワーク大曲管内の高校卒業者の県内就職率は減少傾向にあり、全国の新規学卒就職者の就職後3年以内の離職率は高い水準にある。

Q 市では、こうした状況を受け、入社準備経費の支援や、中高生を対象とした地元企業の説明会の開催など、雇用・就労の場の確保につながる取り組みを進めている。令和8年度からは「だいせんITベース・プロジェクト」を展開し、若者定着の受け皿整備を進める。

Q 若者チャレンジ応援プロジェクト事業の成果と今後の取り組みについて伺う。

A 若者の相談窓口「だいせんLabo」では延べ222

件の相談を受け付け、起業や地域課題の解決につながるケースも増えている。若者トーク事業などを通じ、若者の声を新たな事業につなげている。

Q コミュニティ・ファシリテーターの活用について伺う。

A 若者や女性の活躍はコミュニティの活性化に寄与する。地域や組織を合意形成へ導く人材が重要であり、育成・確保に取り組みたい。



起業家交流会

市営住宅の管理運営について



佐藤 文子
(日本共産党)



Q 市営住宅の自治会運営に携わる方から、共益費減や除

排雪経費増により運営が厳しく、入居者の増加を求める相談が寄せられた。

A 単身の若年層も入居できるように、同居親族要件を撤廃するべきである。

Q 公営住宅法改正により、入居者資格は条例で定める方式に移行した。同居親族要件の廃止等を検討するよう国から通知されており、今後は入居率や応募率の低い団地の一部での若年単身者の入居可否について調査研究する。

Q 全ての市営住宅の浴室にシャワー設置を求める。

A シャワー未設置は228戸で、交換は一戸当たり約40万円と、多額の経費を要する。老朽化も進み、長寿命化計画で在り方を検討す

る時期であることから、現行対応を継続しつつ入居者の意向も伺っていく。

Q 駐車場と通路の除排雪は市で実施することが望ましい。見解を伺う。

A 共用スペースは入居者同士で対応することを基本としている。

当該市営住宅では、これまでの経緯から、自治会が駐車場管理と除雪を実施し、市は管理人に報酬を支払い、通路除雪等を依頼している。今後は自治会や管理人の意見も伺いながら対応していく。

この他、大曲ファミリースキー場の存続を求めることについて質問しました。



総務企画常任委員会 行政視察報告

2月9日・10日、埼玉県深谷市および群馬県高崎市を視察しました。

深谷市では「ふるさと納税制度とGCF（ガバメントクラウドファンディング）」について調査しました。同市では本制度を地場産業振興の手法と位置付け、募集経費を寄付金で賄う独立した財源管理を行っています。GCFにおいては、担当職員が自ら現場へ赴き、状況を直感的に伝える広報をするなど、寄付者の共感を得るための実務的な工夫をされました。

高崎市では「災害対応力の強化と女性目線を取り入れた防災施策」を調査しました。充実したハード整備に加え、女性職員を中心とした関連部署の設置により、避難所運営マニュアル【女性編】の策定や、事業を迅速に予算化・実行する体制を整備していました。また、災害時の備蓄品管理は民間企業との協定によるローリングストック方式を導入し、効率化を図っているとのことでした。

視察研修から得られた知見を、今後の委員会活動に生かしていきます。

（総務企画常任委員会

委員長 橋本 琢史 記）



群馬県高崎市



埼玉県深谷市

産業建設常任委員会 行政視察報告

1月26日・27日、茨城県牛久市で公営住宅の管理および公園の維持管理と利用促進について、茨城県石岡市では新規就農者研修施設「朝日里山ファーム」および有機農業を視察しました。

牛久市では、公営住宅の空き室に関して、公営住宅の目的外使用を国と協議中であり、令和8年4月から開始したいとのことでした。管理業務についても一部を茨城県住宅管理センターへ委託しています。

公園管理については、協働のまちづくりとして、管理する各行政区内の公園等を里子に見立て1㎡40円の補助金を交付し、市民が里親となって管理する制度を実施していました。

石岡市では、担い手および移住者を増やす目的で研修を行っており、研修期間は2年間、年齢45歳まで、有機野菜コースは夫婦で、イチゴ・ブドウコースは単身でも研修を受けることができます。栽培から販売まで行い、必要な技術はJAの有機栽培部会が指導、研修終了後には市内で就農しています。

有機農業については、東京都心に近い優位性を生かして販売先も確保しているため、スムーズな就農に取り組めていると感じました。

(産業建設常任委員会

委員長 安達 成年 記)



茨城県石岡市



茨城県牛久市

教育厚生常任委員会 行政視察報告

1月26日・27日に、神奈川県大和市および東京都町田市を視察しました。

大和市文化複合施設シリウスは、各階に図書を配架し、ICタグや自動貸出機の導入により利便性と業務効率の向上が図られ、飲食や会話を可能とするなど、市民の居場所としての機能を重視した運営が行われていました。子育て世代向けフロアや育児相談機能を整備しているほか、定期的にフロアをまるごと高齢者専用スペースとして開放し、ひきこもり防止や交流促進を図っていました。駅やスーパーに図書返却ボックスを設置している点も特徴的でした。

町田市では、認知症を「支える対象」としてではなく、「ともに生きる存在」として捉え施策を展開していました。スターバックス店舗を活用した「Dカフェ」により、日常空間で気軽に集える場を創出しているほか、里山保全活動などを通じて収益を本人に還元し社会参加を促進していました。また、当事者団体「Dフレンズ町田」を施策の重要なパートナーとして位置付け、施策づくりや普及啓発に主体的に関わる体制が構築されていました。

(教育厚生常任委員会

委員長 石塚 柏 記)



東京都町田市



神奈川県大和市

今年度は「ワールドカフェ方式」を3会場で開催 大仙市議会「市政懇談会」

市民の皆さんと市議会議員が自由に意見交換する「市政懇談会」。市議会議員が議会活動などを報告するほか、参加者の皆さんからご意見を伺う場として開催しています。

今回は、昨年度好評だった「ワールドカフェ方式」を全8会場のうち3会場で開催します。市政懇談会は、どなたでも参加できる“市民参加の場”。あなたのお越しをお待ちしています。

※「ワールドカフェ方式」のみ要申し込み



【ワールドカフェ方式】
カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、対話をして自由に意見を出し合い、より深い議論を引き出す手法（写真は昨年のももの）

【問い合わせ】
議会事務局 TEL.0187-63-1111（内線 303）

大仙市議会「市政懇談会」開催一覧

日 時		会 場
6/23(火)	午前10時～	協和庁舎
	午後1時30分～	大綱交流館※ワールドカフェ方式
6/24(水)	午前10時～	神岡市民センター（神岡庁舎内）
	午後1時30分～	南外コミュニティセンター（南外庁舎隣）
6/25(木)	午後1時30分～	中仙農村環境改善センター（中仙庁舎隣） ※ワールドカフェ方式
6/26(金)	午前10時～	おおたコミュニティプラザ
	午後1時30分～	さくまる館（仙北庁舎隣）
6/27(土)	午後6時30分～	はなび・アム ※ワールドカフェ方式

「ワールドカフェ方式」参加希望の方はこちら

申し込み方法 市公式LINE（右のQRコード）から申し込み
※市公式LINEアカウントの友だち登録が必要です。
※LINEで申し込みできない場合は、議会事務局にご連絡ください。

定 員 各会場15人（定員に空きがある場合は当日参加可）
※空き状況は、右のQRコードから確認できます。

テーマ ①地域交通 ②子育て支援 ③道路・除雪・農業



お申し込みは
こちらから

きかせて！あなたのミライ

大仙市の小学生が将来の夢を語るコーナーです。



たかはし りく
高橋 李空 さん (中仙小学校5年)

■ぼくのしょう来のゆめはお医者さんになることです。人を助けたいと思って、このゆめをもちました。ぼくが小さい時、入院したことがあって、その時のお医者さんがやさしかったので、そういうお医者さんになりたいと思いました。■ぼくのおじいちゃんは、ジャンボウさぎをたくさん育てています。中仙地いきはジャンボウさぎが有名で、3年生の時、総合的な学習の時間におじいちゃんの話聞くことができました。大会で2位に入ったことがあると聞いて「すごい」とぼくもうれしくなりました。■お父さんは、中仙地いきの工事や整備をする仕事をしています。地いきのためにはたらくお父さんはかっこいいです。■ぼくも地いきのためにはたらくかっこいいお医者さんになれるように、国語や算数などの学習をもっともっとがんばります。

6月定例会

日	月	火	水	木	金	土
5/24	25	26	27	28 本会議 議案等上程	29	30
31	6/1	2	3	4	5	6
7	8 本会議 一般質問	9 本会議 一般質問	10 各常任委員会 議案審査等	11 各常任委員会 議案審査等	12	13
14	15	16	17	18 本会議 委員長報告等	19	20

※定例会日程は変更される場合があります。
変更内容は、議会ホームページでお知らせします。



市議会だよりのご感想などをお寄せください

市議会だよりのご感想や大仙市議会に対するご意見、ご要望などを次の方法により、議会事務局へお寄せください。

- ①郵送 ・宛先：〒014-8601 大仙市大曲花園町1番1号 大仙市議会事務局あて
- ②FAX ・番号：0187-62-8822 (議会事務局専用)
- ③メール ・アドレス：gikai@city.daisen.lg.jp

こちらのQRコードからメールを作成いただけます。



議会の傍聴について

本会議および委員会は公開されており、傍聴することができます。傍聴をご希望の方は、議会開会日に、市役所大曲庁舎3階議会事務局窓口までお越しください。

請願・陳情について

6月定例会で審査される請願・陳情は、5月19日(火)までに提出されたもので、それ以降に提出されたものは、次の定例会での審査となります。

編集後記

委員

青柳 友哉

■先日、元福岡市役所財政課長で複数の著書もある今村寛氏をお招きし、「対話で変える議員の仕事」と題した研修を行いました(表紙写真)。この研修では、日常生活にも役立つヒントがありましたので、3点ほどご紹介いたします。「議論は、何かを決めるために話し合うもの。対話は、お互いに理解し合うために言葉を交わすもの」「良い議論の土台には対話がある」「対話では、立場や役割をいったん脇に置き、対等に言葉を交わす姿勢が大切」の3点です。私たち議員の仕事の本質は、市民の皆さんに代わって議論をすることにあります。その土台となる対話を、市民の皆さん、市役所職員、同僚議員と重ねていきたいと改めて感じました。■なお、本紙17ページには市政懇談会のご案内を掲載しております。ぜひお越しいただき、議員と直接対話していただけますと幸いです。

Facebook と Instagram で議会の情報を発信しています

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

